

●●●平成30年4月～6月期 栃木県中小企業景況調査(156回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】

**今期(県内全体)の業況**



**D I 値**  
**-17.3**  
※全国 -14.0

**point!**

県内全体の業況(DI値)は、前期比-4.6ポイントの「-17.3ポイント」となった。全国との差も-3.3ポイント下回り、全ての業種において悪化傾向となった。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業	D I 値	-0.6	10.0	42.3	0.0	6.7	8.5
	業況	業況：今期は小幅な悪化、来期は改善が見込まれる (D I 値 前期比-2.8ポイント)					
建設業	D I 値	-22.2	-20.0	40.0	-20.0	-15.0	-14.1
	業況	業況：今期は悪化となったが、来期は改善の見通し (D I 値 前期比-5.8ポイント)					
小売業	D I 値	-21.7	-32.5	40.0	-20.0	-25.0	-7.9
	業況	業況：今期は小幅に悪化するも、来期は大幅な改善を予想 (D I 値 前期比-2.6ポイント)					
サービス業	D I 値	-25.4	-10.0	44.1	-25.0	-15.0	-15.9
	業況	業況：今期は悪化、来期は改善が見込まれる (D I 値 前期比-7.3ポイント)					

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

**製造業**

- 第1位： 需要の停滞 (19.2%)
- 第2位： 原材料価格の上昇 (15.4%)
- 第3位： 従業員の確保難 (12.8%)

**小売業**

- 第1位： 大・中型店の進出による競争の激化 (20.7%)
- 需要の停滞 (20.7%)
- 第3位： 消費者ニーズの変化への対応 (13.8%)

**建設業**

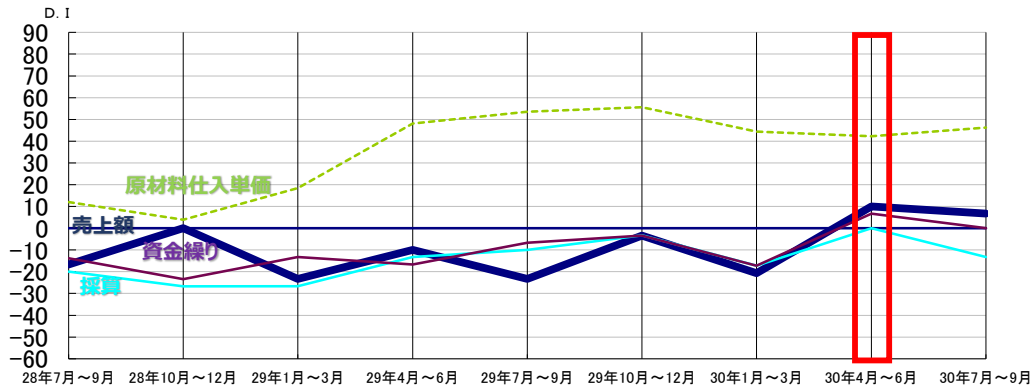
- 第1位： 従業員の確保難 (21.9%)
- 第2位： 民間需要の停滞 (18.8%)
- 第3位： 熟練技術者の確保難 (12.5%)

**サービス業**

- 第1位： 利用者ニーズの変化への対応 (19.3%)
- 需要の停滞 (19.3%)
- 第3位： 大企業の進出による競争の激化 (10.2%)

製造業

「売上額・採算・資金繰り改善、来期は悪化の見通し」

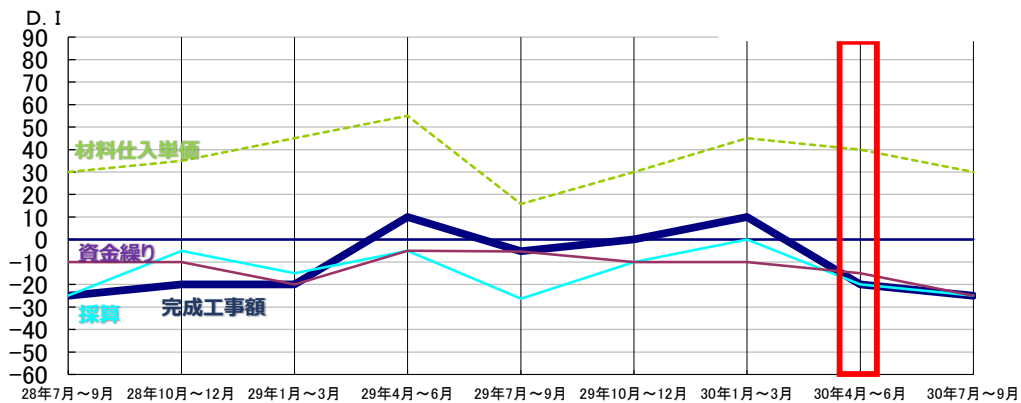


今期は、前期に比べて「売上額」が+30.7ポイント(-20.7→10.0)、「採算」が+17.2ポイント(-17.2→0.0)、「資金繰り」が+23.9ポイント(-17.2→6.7)の改善となった。来期において、「売上額」「資金繰り」は悪化、「採算」においては大幅な悪化が見込まれる。

「原材料仕入単価」は2.1ポイント(44.4→42.3)減少したが、来期は3.9ポイント(42.3→46.2)の小幅な増加が見込まれる。

建設業

「今期は悪化、来期も小幅な悪化が続く見通し」



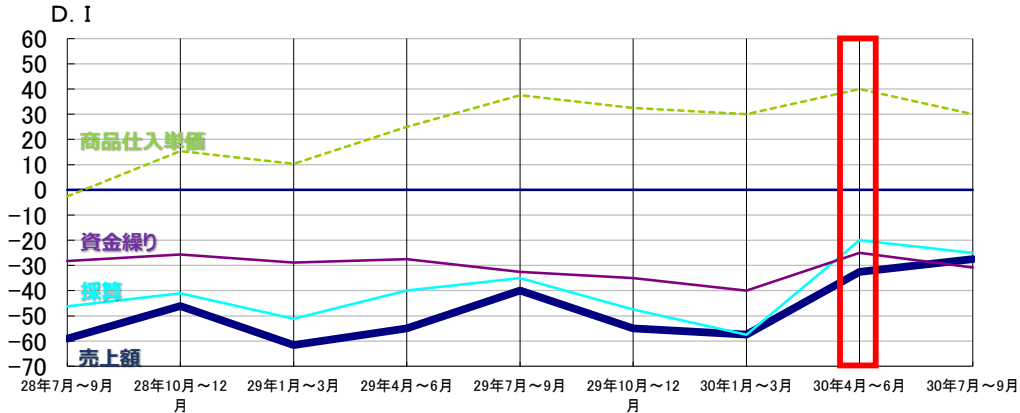
「売上額(完成工事額)」は前期比-30.0ポイント(10.0→-20.0)、「採算」は-20.0ポイント(0.0→-20.0)の大幅な悪化となった。来期においても、それぞれ-5.0ポイントの悪化が見込まれる。

「資金繰り」は前期比-5.0ポイントの悪化、来期も-10.0ポイント(-15.0→-25.0)となる見通しである。

「材料仕入単価」については、今期5.0ポイント減少、来期は10.0ポイントの減少見込み。

## 小売業

### 「各項目で改善傾向、売上額は来期も改善が見込まれる」



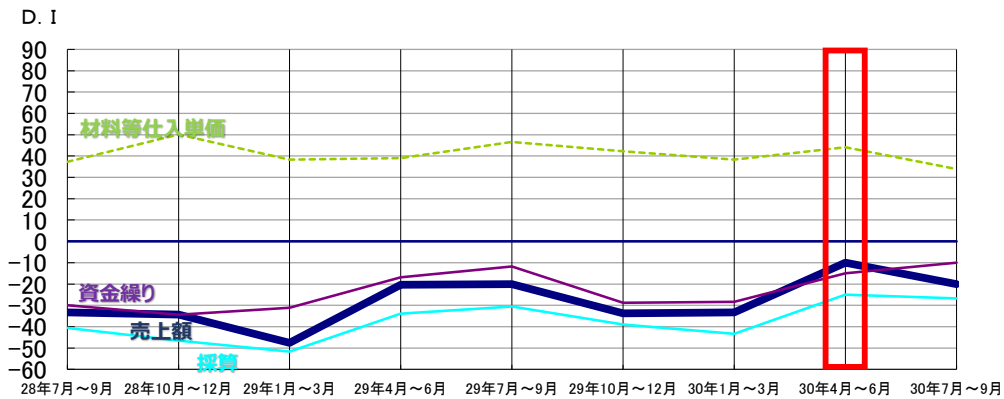
「売上額」が前期比+25.0ポイント(-57.5→-32.5)「採算」が+37.5ポイント(-57.5→-20.0)「資金繰り」が+15.0ポイント(-40.0→-25.0)の改善となった。

来期は「売上額」で+5.0ポイントの改善が見込まれ、「採算」は-5.0ポイント、「資金繰り」は-5.8ポイントの悪化となる見通しである。

「商品仕入単価」は今期10.0ポイント(30.0→40.0)増加、来期は10.0ポイント(40.0→30.0)の減少を予想している。

## サービス業

### 「各項目で改善、来期は引き続き資金繰りが改善」



今期は「売上額」が前期比+23.3ポイント(-33.3→-10.0)、「資金繰り」が+13.3ポイント(-28.3→-15.0)の増加、「採算」は+18.3ポイント(-43.3→-25.0)の改善となった。「材料等仕入単価」は前期比5.8ポイント(38.3→44.1)増加となった。

来期は「資金繰り」以外の項目で悪化の傾向にある。「材料等仕入単価」は減少となる見通し。

## 調査要領

### ○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

### ○調査対象地区（栃木県商工会地区）

にのみや・小山市美田・那須町・上三川町・都賀町  
佐野市あそ・間々田・湯津上・黒羽・塩谷町

### ○調査時点

平成30年6月1日

### ○調査対象期間

平成30年4月～6月期の実績及び、平成30年7月～9月期の見通しについて調査

### ○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

### ○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

### ※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。